

ノアと三人の息子: Noah and His three children 創世記 9 章 18～10 章 30 節

箱舟から出てきたノアの息子たちは、セム、ハム、ヤフェテであった。ハムはカナン之父である。この三人はノアの子らで、全地の民は彼らから出て、広がった。さてノアは農夫となり、ぶどう畑をつくり始めたが、彼はぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。カナン之父ハムは父の裸を見て、外にいるふたりの兄弟に告げた。セムとヤペテとは着物を取って、肩にかけ、うしろ向きに歩み寄って、父の裸をおおい、顔をそむけて父の裸を見なかった。やがてノアは酔いがさめて、末の子が彼にした事を知ったとき、彼は言った。「カナンはのろわれよ。彼はしもべのしもべとなって、その兄弟たちに仕える」。また言った、「セムの神、主はほむべきかな、カナンはそのしもべとなれ。神はヤフェテを大いならしめ、セムの天幕に彼を住まわせられるように。カナンはそのしもべとなれ」。ノアは洪水の後、なお三百五十年生きた。ノアの年は合わせて九百五十歳であった。そして彼は死んだ。

ヤフェテの子孫はゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メセク、テラスであった。これらから海沿いの地の国民が分れて、おのおのその土地におり、その言語にしたがい、その氏族にしたがって、その国々に住んだ。

ハムの子孫はクシ、ミツライム、プテ、カナンであった。クシの子はニムロデであって、このニムロデは世の権力者となった最初の人である。彼は主の前に力ある狩猟者であった。これから「主の前に力ある狩猟者ニムロデのごとし」ということわざが起った。彼の国は最初シナルの地にあるバベル、エレク、アカデ、カルネであった。

セムにも子が生れた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であって、ヤフェテの兄であった。セムの子孫はエラム、アシュル、アルパクサデ、ルデ、アラムであった。アルパクサデの子はシラ、シラの子はエベルである。エベルにふたりの子が生れた。そのひとりの名をペレグといった。これは彼の代に地の民が分れたからである。その弟の名をヨクタンといった。彼らが住んだ所はメシャからセファルに及ぶ東の高原地帯であった。

これらの子孫は、その氏族とその言語とにしたがって、その土地と、その国々に住んだ。これらはノアの子らの氏族であり、その血筋にしたがってそれぞれの国々に住んでいたが、洪水の後、その氏族から地上の諸国民が分れたのである。

コメント: ノアの子孫の物語である。ノアにセム、ハム、ヤフェテの三人の息子が生まれました。全世界が洪水で滅ぼされたので、ノアが人類の祖先になります。その子孫が全世界に広がっていくのですが、系図として、セムの子孫は神の民であるイスラエルの民族になります。ハムの子孫であるクシはエチオピア、ミツライム、ミツライムはエジプトです。またバビロン、アッシリヤの国々が発生します。ヤフェテの子孫のゴメルとマゴグ、彼らは北方に移動します。今のロシアが該当するものと考えられます。今の世界地図を見ると、地の果てにまで人が住んでいます。その人たちも元を辿れば、ノアの子孫ということになります。ここで注意したいのは、ハムの子孫であるカナンです。ノアはカナンにのろわれよ、と宣言しました。世界には多くの人種がありますが、混じり合っているのも事実です。のろわれよといわれた人種は、今どこに存在するのでしょうか。その言葉は取り消されたのでしょうか。イスラエルから見て日本は東の地の果てになります。日本人はどの民族になるのでしょうか。そしてノアの後、セムの子孫からアブラハムが出てきます。神はアブラハムを選んでご自分の民としました。今のイスラエル人です。今回は、アブラハムについてです。